

福井県奥越地域における主伐・再造林の取組みについて

1 テーマの趣旨・目的

「ふくい森林・林業基本計画」等に基づき、主伐・再造林を推進するため、管轄する大野市、勝山市、九頭竜森林組合へ普及活動を行った。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

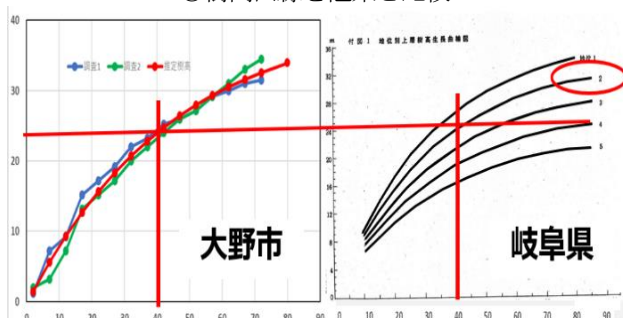
(1) 現状

- ・初期成長が良いと言われているカラマツについては、管内において成林した林分が存在するものの、市町村森林整備計画において標準伐期齢等の記載がなく、再造林の樹種として選択が難しい。
- ・市有林の人工林が主伐期を迎えているが、市で立木販売に係るノウハウがあまりなく、取り組むことが難しい。
- ・主伐推進のため、工程のボトルネックを把握する必要があるが、森林組合の日報付けが手作業のため分析が困難である。

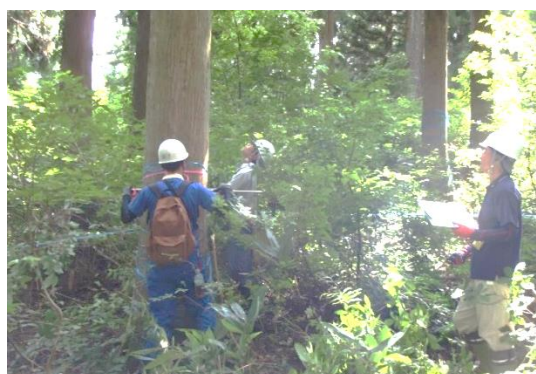
(2) 取組内容

- ・カラマツについて樹幹解析等を行い、樹高曲線等を作成し、成長を他県と比較・分析した。
- ・主伐を計画している市有林の人工林で、立木材積等の調査方法について市へ指導した。
- ・森林組合の作業日報等の手続きを把握し、DX化を図るため作業日報アプリを作成した。

○樹高曲線を他県と比較



○市有林で現地調査を指導



○作業日報アプリを作成

(3) 成果

- ・カラマツの調査結果について市へ内容を説明し、市町村森林整備計画への記載を指導した。あわせて森林組合へ普及し、20haのカラマツ再造林が行われた。
- ・市有林の人工林で立木販売が実施され、1,300m³の素材が生産された。
- ・アプリの活用に向けて、森林組合職員が事業個所等のデータを整理中である。

○市町村森林整備計画への反映



○カラマツの植栽



○市有林での皆伐、市報でのPR



(4) 課題

- ・カラマツが順調に生育するか、継続した調査が必要である。また、カラマツの造林・保育に関する手引きが必要である。
- ・今後も市有林の人工林で立木販売を予定しているが、現地調査の簡素化等が必要である。
- ・作業員の日報付けの簡素化を図るとともに、森林組合の担当職員が行う集計についても効率化する必要がある。

3 今後取組むべき内容

- ・植栽したカラマツの継続調査結果に基づき、保育の手引きを作成し、今後の適正な森林管理を図る。
- ・航空レーザ成果を活用した現地調査の省力化および事務手続の簡素化により市有林の立木販売をフォローアップし、その手法を森林組合へ普及して施業提案への活用を図る。
- ・森林組合におけるスマホアプリの活用をフォローアップし、作業員の日報付けの簡素化を図るとともにデータ集計の自動化により組合担当職員の事務処理の省力化を図る。